

- 問1 18世紀後半、老中の松平定信は、荒廃した農村の復興や、武士や庶民への厳しい儉約、風紀の取り締まりを徹底する政治改革を行いました。この改革について、当時の人々が「白河の 清きに魚の 住みかねて もとの濁りの 田沼恋しき」という狂歌を詠んで皮肉った理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 凶作への備えとして行われた米の備蓄 (困米) の負担が大きすぎ、農村で激しい一揆が頻発したから。
 2. 極端な農業重視の政策により、商業が完全に禁止されたことで都市部の経済が混乱し、生活が困窮したから。
 3. 改革によってわいりや汚職がさらに横行し、以前の田沼意次の政治よりも政治が腐敗してしまったから。
 4. 厳格すぎる儉約の強制や、出版の制限といった風紀の取り締まりが厳しすぎて、民衆が息苦しさを感じたから。
- 問2 享保の改革において、徳川吉宗が「公事方御定書」を制定した背景や目的について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 裁判官ごとの判断のバラつきを抑え、過去の先例に基づいた公正な裁判の基準を確立するため
 2. 大名同士の婚姻を制限し、幕府の許可なく城を修理することを禁じて軍勢力を抑制するため
 3. すべての生き物を愛護することを命じ、過激な罰則を設けることで將軍の権威を示すため
 4. キリスト教を厳しく禁止し、民衆が寺院に所属することを義務付けて思想統制を行うため
- 問3 1600年に石田三成らの軍勢を破った戦いに勝利した後、徳川家康が1603年に朝廷から任命され、江戸幕府を開く際に就いた武家の棟梁としての官職名を選択してください。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 関白
 2. 征夷大將軍
 3. 太政大臣
 4. 執権
- 問4 17世紀末から18世紀半ばにかけての江戸幕府の統計において、幕府領の石高 (コメの生産高) が大幅に上昇している時期があります。これは、8代將軍が主導した改革の中で、幕府の財政安定を目指して行われた農地拡大の成果です。この農地拡大に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
1. 長崎貿易での金・銀の流出を抑えるために、農産物の輸出を制限して国内の流通量を増やした。
 2. 「検地」を全国規模でやり直し、隠し田を摘発することで統計上の石高を無理やり引き上げた。
 3. 「備中鍬」などの新しい農具を幕府が全農家に配布し、既存の耕作地の深耕を促すことで生産力を高めた。
 4. 幕府が町人の資金なども利用し、荒地や海辺を切り拓いて新たな耕作地を作る「新田開発」を推進した。
- 問5 江戸時代の政治改革とその主導者、および幕末の動乱へ至る歴史的な流れを整理したとき、時系列として適切な記述を選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 徳川吉宗が享保の改革を行った後、水野忠邦による天保の改革、松平定信による寛政の改革と続き、それらの改革がすべて終わった直後にペリーが来航した。
 2. 水野忠邦が天保の改革で株仲間の解散を命じた後、松平定信が寛政の改革を行い、最後に徳川吉宗が享保の改革を行ったことで江戸幕府の支配体制が完成した。
 3. 松平定信による寛政の改革が失敗した直後に徳川吉宗が將軍となり、その後に水野忠邦が天保の改革を行い、最後にペリーが来航して開国した。
 4. 徳川吉宗が享保の改革で実利的な学問を奨励した後、松平定信が寛政の改革を行い、水野忠邦が天保の改革を断行した。その後、ペリーの来航により日本は開国へと向かった。
- 問6 江戸時代後期の生産形態である「工場制手工業」において、それ以前の「問屋制家内工業」と比較した際の変化として最も適切な説明はどれですか。当時の生産現場の様子を示す記録では、多くの人々が同じ場所に集まり、異なる作業工程を分担している様子が描かれています。 (2026年 愛媛県公立入試 類似)
1. 年貢として納められた農産物を、武士が管理する役所の中で一括して加工する仕組みが全国に広がった。
 2. 商人が農家に原料を預けて自宅で生産させる仕組みから、働き手を工場に集めて生産する仕組みになった。
 3. 蒸気機関や大型の機械を導入することで、人の手による作業をすべて自動化するようになった。
 4. 一人の職人がすべての工程を最初から最後まで担当する、完全な個別生産が主流になった。
- 問7 江戸時代において、貧困などにより農民が所有する農地を手放して没落すると、幕府や藩の支配にどのような影響が生じましたか。その理由として最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 土地を失った農民が年貢を納められなくなり、幕府や藩の収入が減少・不安定になる。
 2. 農地の売買によって穀物の価格が急激に下落し、武士の生活が著しく困窮する。
 3. 土地を購入した富裕な町人が大名に代わって藩の政治を行うようになり、幕府の統制が崩れる。
 4. 農民が土地を離れて海外へと移住するようになり、国内の人口が急激に減少する。
- 問8 17世紀、日本との朱印船貿易によって東南アジア各地に日本町が形成された。このうち、東南アジアの略地図においてインドシナ半島の中央部 (現在のタイ付近) に位置し、山田長政が王室に仕えて活躍した都市はどこか。 (2020年 北海道公立入試 類似)
1. マカオ
 2. アユタヤ
 3. ジャカルタ
 4. マニラ
- 問9 江戸幕府がキリスト教の信仰を禁止するために、人々が仏教のいずれかの寺院に所属していることを証明させ、その情報を記録した名簿を作成した制度を何といいますか。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 宗門改
 2. 五人組
 3. 武家諸法度
 4. 慶安の御触書
- 問10 1630年代、江戸幕府は朱印船貿易を停止させ、日本人の海外出入国を厳しく制限する一連の政策を行いました。幕府が、それまで奨励していた海外貿易を一転して制限し、鎖国体制へと踏み切った主な目的は何ですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
1. 朱印船による密貿易が横行し、幕府の許可なく日本町が武装して反乱を起こす恐れがあったため。
 2. 日本国内の物資が不足することを防ぐため、すべての外国船の来航を全面的に禁止するため。
 3. 東南アジア諸国との外交関係を断絶し、鎖国後も貿易を続けたオランダを排除するため。
 4. キリスト教の広まりを抑え、幕府による貿易の統制を強めることで支配体制を安定させるため。
- 問11 徳川家光が「武家諸法度」を改定して参勤交代を制度化した際、大名に多額の費用を負担させて江戸と領地を往復させるようにしました。この制度の主な政治的な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 岐阜県公立入試 類似)
1. 地方の優れた特産品を江戸に集め、海外との貿易品を確保するため
 2. 大名の家族を江戸に住まわせることで、將軍との親睦を深め、身分差をなくすため
 3. 全国の街道や宿場町を整備させ、商人の活動を活発にして幕府の税収を増やすため
 4. 大名の経済力を奪うことで、幕府に対して反乱を起こす余裕をなくさせるため
- 問12 秋田県の角館などの歴史的な城下町において、道路が格子状ではなく、わざと複雑に折れ曲がっていたり、丁字路 (突き当たり) が多く設けられていたりしている構造が見られます。このような道路の仕組みが作られた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. 敵の侵入時に見通しをきかなくさせ、軍事的な防御力を高めるため
 2. 雨水がたまらないよう傾斜をつけ、排水効率を向上させるため
 3. 火災が発生した際、強い風が通り抜けて延焼が広がるのを防ぐため
 4. 大名行列が民家を避け、スムーズに通行できるようにするため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 厳格すぎる俵約の強制や、出版の制限といった風紀の取り締まりが厳しすぎて、民衆が息苦しさを感じたから。	松平定信による寛政の改革は、田沼意次の時代の賄賂政治（濁り）を正そうとして行われました。定信の旧領である「白河」と、水が清すぎる（政治が厳しすぎる）ことを掛け、魚（民衆）は住みにくいと嘆いています。あまりに厳しい風紀の取り締まりや俵約の強制は、民衆の反発を招き、結果として支持を失う原因となりました。
問2	答え 1 裁判官ごとの判断のバラつきを抑え、過去の先例に基づいた公正な裁判の基準を確立するため	江戸時代前期までは、裁判の基準が明確に成文化されておらず、担当する役人によって判決が異なることが課題となっていました。徳川吉宗は、司法の近代化の一步として、過去の裁判の記録を体系的にまとめることで、全国どこでも一定の基準で裁判が行われる体制を目指しました。選択肢にある大名の統制は「武家諸法度」、信仰の制限は「寺請制度（禁教政策）」、生き物の愛護は「生類憐みの令」の内容です。
問3	答え 2 征夷大將軍	徳川家康は、全国の勢力が二分された関ヶ原の戦いで勝利を収めた後、1603年にこの職に任命されました。これにより、家康は朝廷から公認された武家政権の首長として、260年あまり続く江戸幕府の基礎を築くこととなりました。
問4	答え 4 幕府が町人の資金なども利用し、荒れ地や海辺を切り拓いて新たな耕作地を作る「新田開発」を推進した。	8代将軍の徳川吉宗が行った「享保の改革」では、慢性的な幕府の財政難を解消するため、年貢の増収が最優先課題とされました。その一環として、それまで手付かずだった荒れ地や、海辺の干拓、沼地の干上がりなどを利用して耕地を広げる「新田開発」が積極的に奨励されました。この政策により、18世紀前半から幕府領の石高は大きく上昇し、財政再建に大きく貢献しました。備中鍬などの農具の普及は農村自体の生産力向上には寄与しましたが、幕府主導の石高上昇の主な要因は耕地面積そのものの拡大にあります。
問5	答え 4 徳川吉宗が享保の改革で実利的な学問を奨励した後、松平定信が寛政の改革を行い、水野忠邦が天保の改革を断行した。その後、ペリーの来航により日本は開国へと向かった。	江戸幕府の改革は、1720年代の「享保の改革（徳川吉宗）」、1780年代末からの「寛政の改革（松平定信）」、1840年代の「天保の改革（水野忠邦）」という順で、約50年程度の間隔を空けて実施されました。天保の改革の失敗後、1853年にペリーが来航し、日本はそれまでの鎖国政策を改めて開国へと踏み出すこととなります。それぞれの改革が当時の社会問題（飢饉や物価高騰）に対処しようとした背景を理解することが重要です。
問6	答え 2 商人が農家に原料を預けて自宅で生産させる仕組みから、働き手を工場に集めて生産する仕組みになった。	大きな特徴は、生産の場が「個々の農家（家庭内）」から「工場（こうじょう／こうば）」へと移動したことです。これにより、複数の働き手が「分業（作業を分けること）」と「協業（協力すること）」を行うことが可能になり、手作業ながらも効率よく大量の製品を作ることができるようになりました。
問7	答え 1 土地を失った農民が年貢を納められなくなり、幕府や藩の収入が減少・不安定になる。	幕府や藩の財政は、土地を持つ農民が納める年貢に支えられていました。農民が土地を失うと年貢を納める主体がいなくなり、幕府や藩の安定した収入が脅かされることになります。
問8	答え 2 アユタヤ	アユタヤは現在のタイに位置するアユタヤ王朝の首都で、朱印船貿易の時代に最大級の日本町が置かれた。山田長政は、この地でアユタヤ王室の信望を得て、政治や軍事の面で高官として活躍した。選択肢のマニラは現在のフィリピン、ジャカルタは現在のインドネシアに位置する都市である。
問9	答え 1 宗門改	江戸幕府は島原・天草一揆のあとに禁教をより徹底するため、人々を強制的に寺院の檀家とさせ、キリスト教徒ではないことを寺に証明させる寺請制度を整えました。この仕組みによって作成された名簿は「宗門人別改帳」と呼ばれ、現在の戸籍のような役割も果たしました。
問10	答え 4 キリスト教の広まりを抑え、幕府による貿易の統制を強めることで支配体制を安定させるため。	江戸幕府は、キリスト教の教えが幕府による封建的な支配体制を脅かすことを恐れました。また、西国大名などが貿易によって富を蓄え、軍事力を強化することも警戒しました。そこで、日本人の海外渡航を禁じて貿易の窓口を幕府の監視下に置く（鎖国）ことで、キリスト教の流入を防ぎ、同時に貿易の利益を独占して権力基盤を固めようとしたのです。
問11	答え 4 大名の経済力を奪うことで、幕府に対して反乱を起こす余裕をなくさせるため	参勤交代は、大名の妻子を人質として江戸に住まわせると同時に、多額の旅費や江戸での生活費を負担させることで、軍事力に転用されかねない各藩の経済力を削ぎ落とし、幕府への反抗を抑止する狙いがありました。
問12	答え 1 敵の侵入時に見通しをきかなくさせ、軍事的な防御力を高めるため	江戸時代の城下町は、軍事的な拠点としての役割を強く持っていました。そのため、外敵が攻めてきた際に城の中心部まで一気に直進されるのを防ぎ、また遠くからの見通しを悪くして敵の配置を把握させないように、道路をわざと屈曲させたり行き止まりを作ったりする工夫が施されました。秋田県の角館などの歴史的景観には、現在もその名残が見られます。